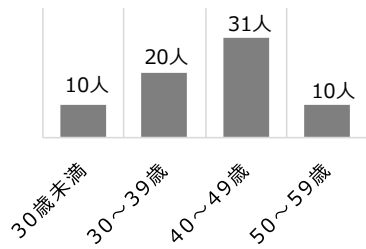


新人看護職員研修「研修責任者・教育担当者・実地指導者研修」

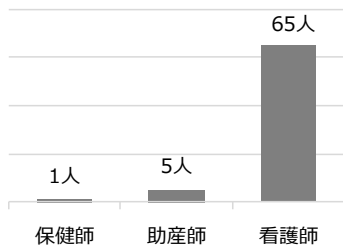
目的：新人看護職員教育担当者の指導力向上および自施設での研修体制の整備・充実により新人看護職員の離職防止を図る。

回	日程	会場	内容	講師	対象
1	8/28 (月)	諫 早	<p>【新人看護職員研修事業についての理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 新人看護職員研修ガイドラインの概要 ■ 医療・看護を取り巻く現状と施策の動向 ■ 新人看護職員研修における各担当者の役割 ■ 新人看護職員の特徴と支援体制 ■ 看護基礎教育に関する知識 等 	徳島文理大学大学院 教授 上田 伊佐子 先生	研修責任者 教育担当者 実地指導者
2	8/29 (火)	諫 早	<p>【人材育成に関する基礎知識】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 新人看護職員の実践能力にあった指導を行う技術 ■ 具体的な指導方法、評価する技術 ■ 円滑な人間関係の構築のための調整やコミュニケーション技術 ■ メンタルサポート技術 ■ 新人看護職員研修の現状・課題 等 		
3	9/14 (木)	諫 早	<p>【院内教育の展開に関する基礎知識・技術の習得】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 看護専門職業人としての継続教育、キャリア形成の考え方 ■ 院内教育の目的・意義・体制と役割 ■ 年間教育計画の立案・キャリア形成を支援する技術 ■ 評価の意義・方法・評価結果の活用 等 	長崎県立大学シーボルト校 教授 山澄 直美 先生	研修責任者 教育担当者
4	9/15 (金)	諫 早	看護部門の教育方針に基づき、新人看護職員教育体制の現状を振り返り、在り方を検討する。(演習)		
5	9/22 (金)	佐世保	<p>【新人教育支援におけるセルフマネジメント】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自己の新人教育の支援を振り返り、新人教育支援の 目的に照らして、意味づけができる。 ■ 自己のセルフマネジメントができる。 ■ 自身のモチベーションの状態について理解でき、現状を 変化させるための目標を具体的にのべることができる。 	福岡教育大学 教授 生田 淳一 先生	研修責任者 教育担当者 実地指導者

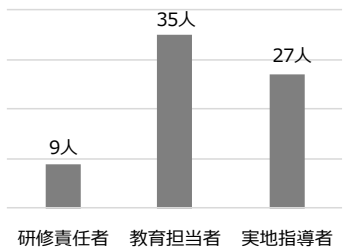
年齢



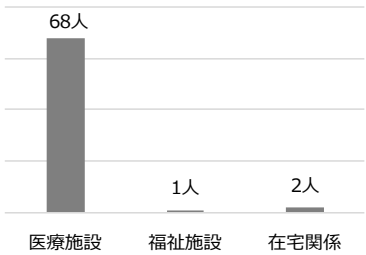
職種



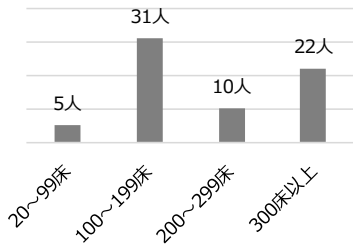
役割



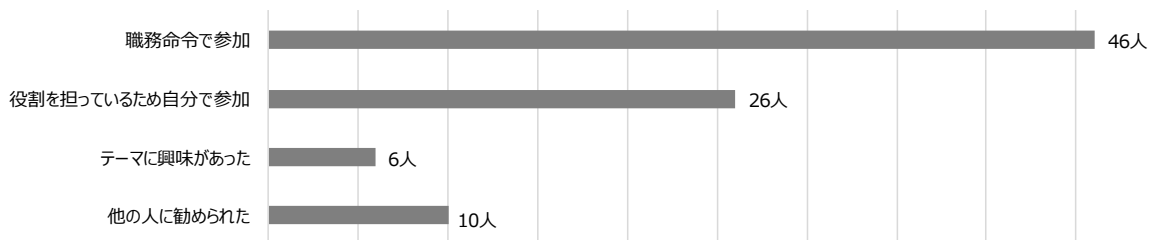
現場の経験



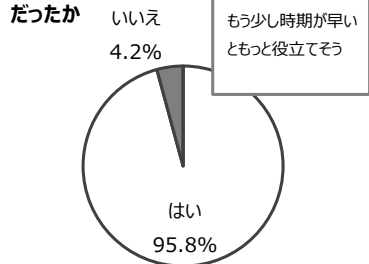
病床数



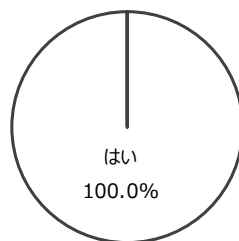
受講動機 (複数回答可)



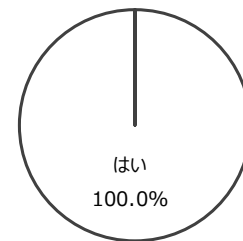
開催時期・研修回数・曜日は適切だったか



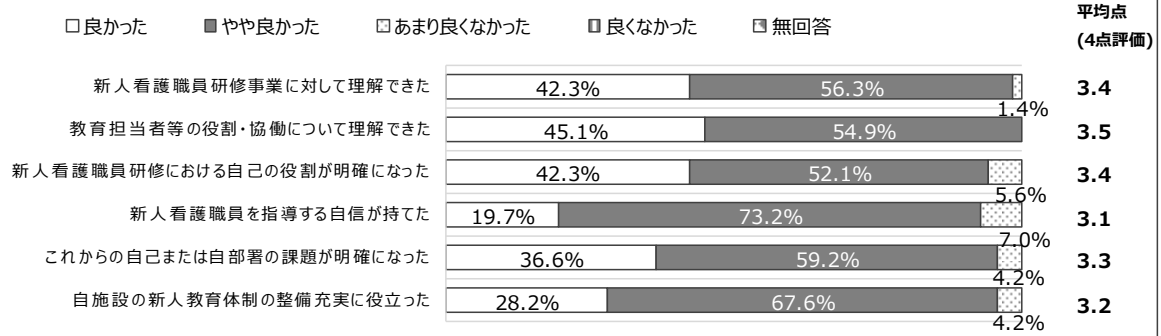
研修方法は適切だったか



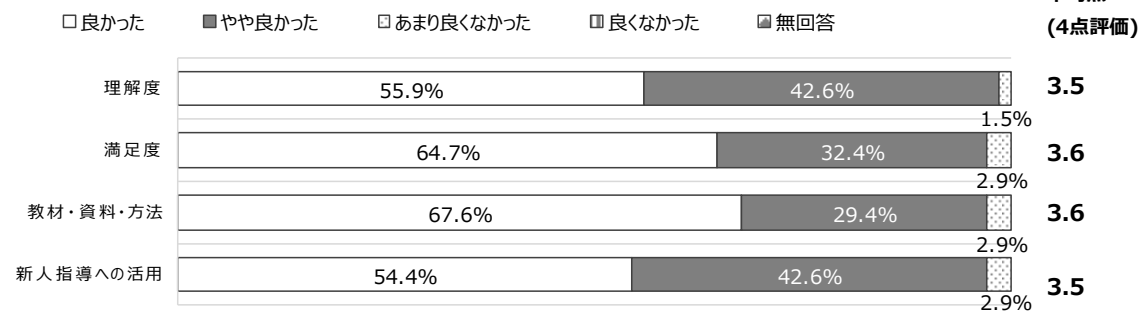
次年度も本研修は必要か



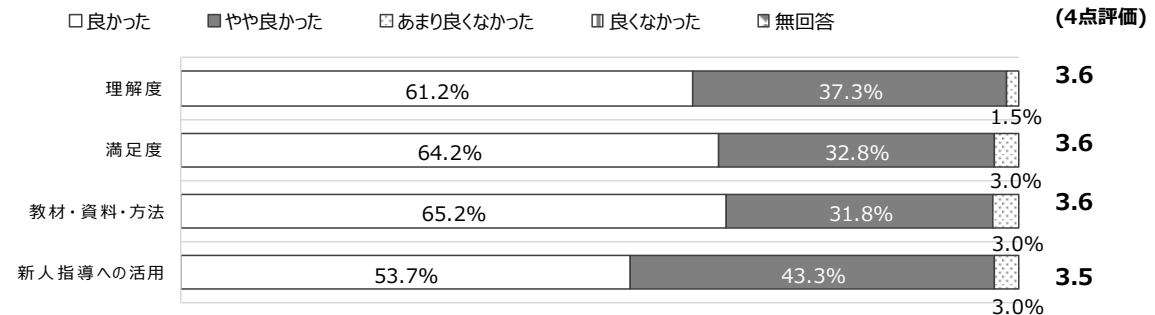
研修目的達成について



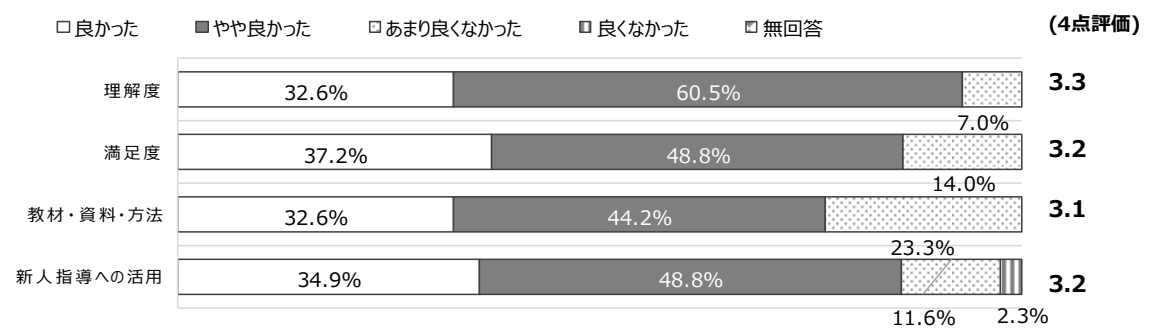
新人看護職員研修事業に対する理解

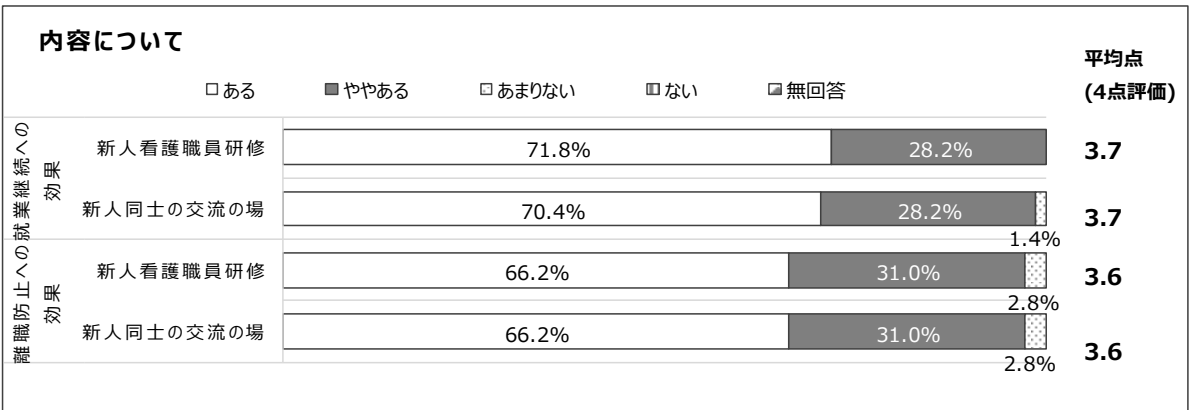
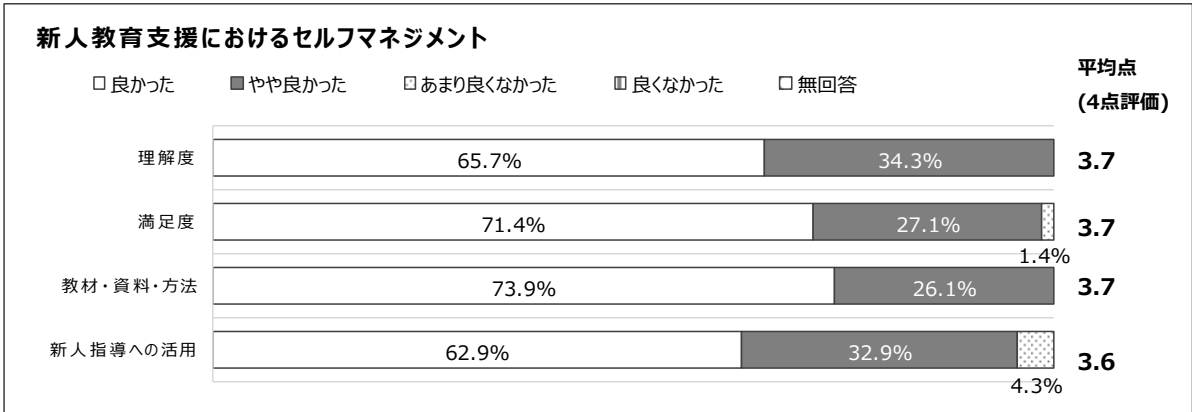
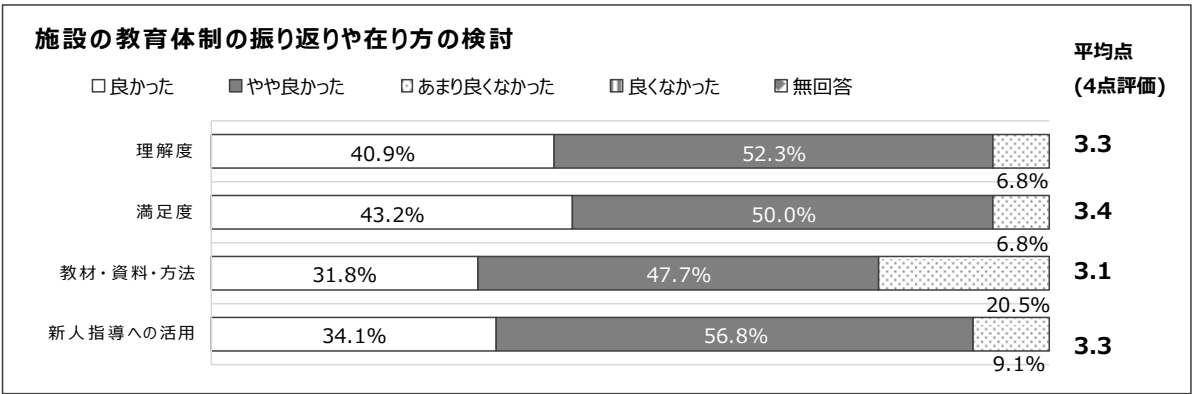


人材育成に関する基礎知識



院内教育の展開に関する基礎知識・技術の習得





受講者数	75人
回答者数	71人
回答率	94.7%

※割合の合計は四捨五入の関係で100%とならない場合もあります。

所属施設 地区別

	病院	クリニック	福祉施設	その他
県南	26			
県央	29			
県北	14			
離島	6			
計	75			

<評価>

受講者 75 名と定員を大きく上回ったことは、管理者が新人看護職員の離職に危機感を持ち、教育体制整備や指導者育成に取り組もうとする姿勢や、受講者自身も自施設の課題解決を目的に、重要な研修と意識していることがうかがえた。

研修内容では、看護職の基本姿勢や態度、セルフマネジメントなど、指導者自身の資質向上につながる点が「とても参考になった」と高く評価され、新人指導の基本知識や教育的視点の習得にも一定の役割を果たした。他施設の受講者との意見交換を通じて「貴重な時間だった」など、課題の共有や相互刺激も得られ、さらに「新人教育に活かしていきたい」など、それぞれの立場で体制整備に向けた取り組む姿勢も見られた。今後、実践への取り組みが期待され、各施設での新人看護職員の離職防止に寄与する学びが得られた有益な研修であったと評価する。

<課題と今後の取り組み>

フォローアップ研修の実施がなく、研修終了時に学習課題の達成度の評価が実施できていないことが課題である。次年度はアンケート内にて課題達成度を評価し、施設体制整備や教育環境向上への指標のひとつとする。